

カルチャー・ショック 外国人のみた日本



Pham Xuan Kien
出身地：ベトナム
所属：政策研究大学院大学国際開発研究修士課程
日本滞在：2008年10月～2009年2月

外国人留学生が見た日本文化

フナム・スアン・キエン

文化と社会規範に関しては、共にアジアの国である日本はベトナムとさほど変わらないだろう。来日前に私はそう思っていた。しかし、私がJICAの奨学金を得て二年間の修士コースのために来日した初日、成田空港に着くや否や、日本人が多くの点でわれわれと異なっていることに気づいた。

まず驚かされたのは、日本のサービスの良さであった。成田空港はあまりに広く、私は迷子になりそうになっていた。すると、何も言わないのに空港スタッフが英語で声をかけてくれた。彼女は私をJICAデスクまで連れて行き、デスクのスタッフに何か日本語で伝え、お辞儀と笑顔と共に去っていった。お辞儀をせねばならないのは私の方だ、と気が付いた時には彼女はもういなくなっていた。

成田空港から宿泊先である幡ヶ谷の東京国際センターに着くまでの間に抱いた日本人に対する印象は、みな早足に歩き、道端でおしゃべりなどせず、仕事に集中している、というものであった。空港のJICAスタッフは私をバス停まで連れて行き、バスの運転手に何か日本語で伝え、お辞儀と共に去っていった。バスは私を都内のバス停まで運び、そこでバスの運転手がタクシーの運転手に何か日本語で伝え、お辞儀

して去っていった。そしてタクシーの運転手は……。そうやって私はベルトコンベヤーで運ばれるようにして自分の部屋までたどり着いた。その間のプロセスはすべて計画されており、私が会った日本人はみな計画通りに仕事を遂行していたのだ。

日本人は生の魚が好きだということは知っていた。私も初めて食べたときは腹を壊すのではないかと心配したが、日本の食べ物には清潔で衛生的だとわかった。私は一度ペットフードを食べそうになったことがある。ペットフードも清潔で衛生的だから大丈夫だろうと思ったわけではない。単に間違えたのである。日本に来て二週間が経った頃、そろそろ何か新しい食べ物に挑戦してみようと考え、近所のスーパーマーケットでおいしそうなお飯と肉のパッケージを購入した。宿舍の電子レンジで暖めようとしたところ、宿舍のスタッフが、「それは猫のエサだ」と言うではないか！日本ではさまざまなペットフードが売られており、包装も凝っている。一方、私の国ではスーパーマーケットで売られている食べ物はずべて人間用である。

日本人はチームスピリットに満ちており、チームでの仕事に長けている点もすばらしい。私が初めて日本の友人とフットサルを

プレーした時、まずチーム内でキャプテンを選んだことにびっくりした。初めて会う人も参加するこんな遊びの試合で、キャプテンなど必要ないだろうと思ったからである。しかし私は、どんなレベルの試合であろうと明確な役割を持ったキャプテンが必要であることを悟らされた。キャプテンは選手交代という難しい仕事における権限を持ち、他のメンバーはキャプテンの決定に従う。日本では試合後に「反省会」が行われるのが通例だが、その席でもまずキャプテンが試合の分析を行い、そしてその後他のメンバーが各々意見を述べるのである。私はチームのメンバーと家族のような一体感を覚えた。フットサルの試合でさえも、日本人は学ぶべき多くのことを示してくれた。

日本人は桜の花が大好きである。花そのものよりも、桜の下で集まって飲んで歌って踊って写真を撮ることの方が好きなのかもしれない。しかしそこでも日本人はお互いを尊敬することとルールを守ることを忘れない。私はこの国が大好きだ。一度日本に来れば、どの国の人も日本のことを忘れられなくなるだろう。

(前インタビューシップ生/訳) 坂田正三